

人と活動のつながりづくりを応援する

にしとも広場

地域に広がる“学びの場”



2025

24号



学びの活動と
取り組みを
紹介します



特集

ともに学ぶボランティア
「あすのち」「にしともるーむ」

登録団体インタビュー：「こどものカフェ」

活動報告：にしとも広場 アート展

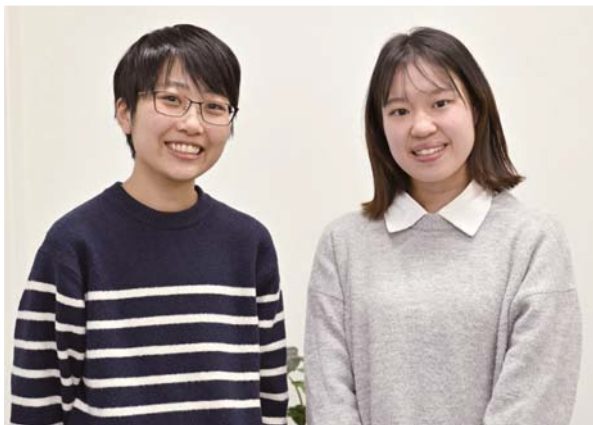
新規登録：「西区街の名人・達人」のご紹介



にしく市民活動支援センター
にしとも広場

ともに学ぶボランティア

「パワーをもらえるよね」。そう言って楽しそうに子どもの学びに寄り添うボランティアがいます。となりに座って一緒に問題を解くことから安心と信頼が生まれ、やがて心地よい居場所になります。今回は、そんな“学びの場”を2つ紹介します。



左: あすのち代表 乾さん (会社員)
右: 副代表 三浦さん (大学生)



横浜教室の様子



子どもたちが描いた絵をちりばめています



現役高校生が設立、 学びとあそびの教室「あすのち」



設立の経緯を教えてください

乾: 中学時代に家庭の経済的な事情で勉強したくても塾に通うことが難しい、学校の先生や友達にも相談しづらいという経験をしました。高校入学後、「誰でも行ける学びの場」を作りたいと思い、2017年5月に地元の座間市で中学からの仲間と5人で、小学生向けの無料学習サポートを行うボランティア団体として「あすのち」を立ち上げました。

活動内容を教えてください。

乾: 現在は学習サポートに加え、ゲームで遊んだりお話ししたりなどして自由に過ごせるフリースペースも運営しています。アクセスのよい横浜市にも教室を開校し、対象年齢を小学1年生から19歳までに広げています。遠足やクリスマス会などのイベントも開催しており、スタッフは高校生から社会人まで40人ほどに増えました。

子どもの意志が尊重される場所

あすのちのアピールポイントはどんなところですか

乾: あすのちは対象年齢以外に参加条件を設けていません。あえて参加する理由を言わなくても参加できる場でありたいと思っていて、「地域に開かれた場づくり」を大切にしています。

また、私たちスタッフはあすのちを「お互いに学び合う場」として大切にしている、子どもたちに対してもスタッフ間にも「してあげる」「してもらう」の関係性はないと考えています。

教室は学習スペースとフリースペースを併設し、子どもたちが自由に行き来できるようにしています。日常のなかで小さくても自分で決める体験をすることがとても大切であり、その子のタイミングまで待つということが大切なコミュニケーションの一つだと考えているので、教室の中で何をするかは本人の意志に任せています。

それはスタッフみなさんの共通認識なのですか

乾：はい。スタッフが増えてくると同じ思いを共有することが一番大切なところになると思ったので、「あすのちが目指しているもの、思い、大切にしている姿勢」をみんなで共有するために『スタッフルールブック』を作りました。これに共感していただける方にスタッフになっていただいています。

三浦さんがあすのちと関わったきっかけは

三浦：きっかけは高校1年生のときに、入学した高校に馴染めず家から出られなくなったことでした。「学校に居場所がなくなると、家から出られなくなってしまうのだ」ということがショックで辛く、学校以外の居場所を探しました。そして、元々子どもと一緒に遊んだり勉強を教えたりすることが好きだったので、地元の学習支援ボランティアに参加するという形であすのちに関わるようになりました。

あすのちでの活動が増えるに伴い、高校で辛いと思っていたことも克服できるようになりました。

スタッフが社会人になっても

あすのちのこれからを教えてください

乾：あすのちは今、座間教室で月2回、横浜教室とオンラインで月3回活動していますが、やはり、子どもたちが行きたいと思ったときにふらっと行けるような場所にはまだまだ程遠いと感じています。活動日数を増やして、各教室毎週開催、そして将来的にはいつでも行けるような場所にしていきたいと思っています。究極は「思い立ったら立ち寄れる場所」です。

それには継続することが大事だと思うので、今年度、来年度で、団体運営に携わっている中心スタッフが社会人になるのに合わせ、学生団体から成長した市民団体として活動していきます。色々な大人や学生がいるなかで、子どもたちが自身のロールモデルを見つけられるといいと思っています。

反面、社会人となる中心スタッフが仕事とあすのちとをどう両立していくか、あすのちとの関わり方の見直しが課題だと思っています。三浦さんが転居を機に座間教室を離れても、副代表としてオンライ

ンを中心に変わらずあすのちを支えてくれている例もあります。自分の生活が変化していくなかで、あすのちを続けたいと言ってくれるスタッフには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。活動を続けていくためにも、みんなにとってちょうどいい関わり方ができるように模索していきたいと考えています。

社会人になったスタッフがそれぞれ違った分野で力を蓄え、あすのちに持って帰れるようにしたいです。

自分の思いが原動力



「やりたくてやっているだけ」と言う

おふたりのモチベーションはどこから

乾：子どもたちが大人になることに希望を持てる社会を作りたいという思いが私の原動力です。例えば、自分からわざわざ探さなくても、地域の中で当たり前前に信頼できる大人に出会えたり、自分を応援してくれる人がいるから何かやってみようと思えたりするような、子どもたちが希望を持てる場を作りたいと思っています。

三浦：私にとってあすのちは「居場所」であり、自分がエネルギーをもらいに行く場所になっています。「自分が生きていてもいいよね」と確かめられる場所でもあるし、自分のライフステージが変化して何か大きく変わったときも、変わった自分を受け入れてくれる場所だと思っています。そういった場が自分にあるということが最高に幸せなことだと思うので、その場を守りたいという思いが一番強い原動力になっています。

あすのち

「子どもが自分の明日を信じていける社会」を目指し、一対一でサポートする学習教室と、ゲームなどで遊べるフリースペースを開くボランティア団体。小学生～19歳はいつでも無料で参加できる。



活動拠点 横浜市（西区福祉保健活動拠点フクシア）、座間市、オンライン

横浜教室 開催日 原則毎月第1・2・4日曜日 10:00～12:30

メール satsuki.yuugure@gmail.com



(左から) 藤本さん、脇田さん、飯田さん

外国につながる子どもの学びを応援 「にしともる一む」

「にしともる一む」(以下「る一む」)は、「西区役所周辺で、外国につながる子どもが勉強できる場はありませんか?」という相談をきっかけに、2018年8月にスタートした外国にルーツをもつ小学生の学習支援の場です。母国語が日本語でないと、日常会話はできていても、文章問題を読むことや意味を理解することが難しく、困ってしまうことが多く見られます。「る一む」では、ボランティアと宿題やプリントに取り組みながら、日本語のやり取りに慣れることを意識して活動しています。子どもの気持ちを尊重し、学習に飽きてしまった時や、宿題が一段落したら、お絵かきやトランプなどでくつろぐ時間も大切にしています。

長くボランティアを続けている脇田さんは、退職後は地域に密着した活動、なかでも大好きな子どもに関わる活動をしようと思い、ボランティア講座の受講や他の地域活動をきっかけに「る一む」に関わることになりました。「る一む」は基本的に小学生を対象としていますが、中学進学後も継続して通いたい子どもには高校受験に向けての夏休み特別教室も開き、希望の高校に進学が決まった時はみんなで喜びを分かち合いました。

「子どもたちからパワーをもらえるよね」と優しいまなざしで語る脇田さん。「週に1時間の学習支援は、勉強を根本的に教えるというよりも、生活のお手伝いだと思っています。子ども達の成長は、自分の楽しみでもありますね」と子ども自身の頑張りを応援してくださる心強い存在です。

「る一む」には他にも、飯田さんや藤本さんという心優しく隣で寄り添ってくれるボランティアが活動しています。みなさん、それぞれの得意分野がわかっているので、自然と役割を分担しながら活動を続けています。学校の教科書に加え、最近、外国語の絵本も揃えてみました。「この中国語の絵本を読んでもらおうかしら」と飯田さんはさりげない関わりから、心地よい関係性を育めるように工夫しています。毎週火曜日、にしとも広場でみんなを待っています。

にしともる一む

住所 横浜市西区中央1-5-10西区役所1階
にしとも市民活動支援センター「にしとも広場」

電話 045-620-6624

開催日時 毎週火曜日 16:00 ~ 17:00

費用 無料



ここに広場 小中学生学習教室

毎週金曜日、自治会館に元気な小中学生がやってきて、ボランティアの先生と一緒に、にぎやかに宿題やプリントに取り組んでいます。2017年、地域にお住まいの方の呼びかけからスタートし、地域の小学校と連携して運営しています。「おやつを食べている時が一番静かなのよ」と笑顔で語る主催メンバーのひとりである近藤さんは、長年子どもたちの成長を見守っています。地域の大人の温かい声掛けと視線の中で、安心して過ごせる居場所のひとつになっています。



- 開催場所 浅間町三丁目自治会館（西区浅間町3-186）
- 開催日時 毎週金曜日16:00~18:00
- 費用 無料
- 主催 六地区子ども居場所検討会

浅間コミュニティハウス

浅間コミュニティハウスは、約30,000冊もの図書を有する施設です。図書室・会議室の他に、個人で利用できる学習室（16ブース）があり、中高生から大人までが、朝早くから夜遅くまで、熱心に学習する様子が見られます。学習室の向かいには、開架式図書室となっているので、静かな落ち着いた空間で、読書することもできます。「びっくりするくらい長い時間、真剣に勉強していますよ」と館長の吉井さん。ここでは、だれもが落ち着いて過ごせる空間づくりを大切にしています。



- 住所 西区浅間町5丁目375-1
グランドマスト横浜浅間町2階
- 電話 045-311-6085
- 開館時間 月曜～土曜 9:00～21:00
日曜・祝日 9:00～17:00
- 休館日 毎月第3月曜（祝日の場合は翌平日）・年末年始

青少年交流・活動支援スペース さくらリビング

桜木町駅に直結する「さくらリビング」は、自分らしく過ごせるみんなのリビングとして、多くの中高生が利用しています。学習コーナーでは、テーブルや個別ブースで学習ができ、定期テストや受験シーズンには夜遅くまで勉強する姿が見られます。Wi-Fi や貸出しロッカーもあり、ロビーでは飲食も可能です。だれもが書き込める「交換日記」には、日頃のつぶやきや、受験応援メッセージなど、温かい気持ちと言葉がアナログで交わされています。「パソコンやスマートフォン、SNSが普及しても、ここで過ごす若者たちの気持ちや様子は変わっていません」と施設長の尾崎さん。スタッフの皆さんは、さりげない気遣いと温かな見守りで若者を応援しています。



- 住所 中区桜木町1-1びおシティ6階
- 電話 045-263-8020
- 開館時間 9:00～22:00
- 休館日 毎月第1日曜・年末年始
- 運営団体 公益財団法人よこはまユース

登録団体インタビュー「こどものカフェ」

にしとも広場には、まちづくりや地域課題の解決、子育て支援、趣味・特技を活かした文化・芸術活動をしている市民活動団体等が数多く登録しています。このページでは、登録団体みなさんにインタビューし、その活動を紹介します。

「こどものカフェ」は学校に通いづらい子どもと、その保護者（以下、当事者）の安心できる居場所として、子ども発意で始まったカフェ“こどものカフェ”やマルシェと、当事者どうしが集い語り合う場“親カフェ”を開いています。今回は“親カフェ”を中心に、代表の曾我部恵子さんにお話を伺いました。

立ち上げの経緯 ～私自身が救われた場所～

コロナ明け、長女に続いて小学3年生だった次女が学校に通いづらくなりました。気持ちを共有できる人もなく一人で辛さを抱えているとき、次女の担当だったスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）さんが、神奈川区にある当事者の集いを紹介してくれました。

初めて参加したとき、同じ当事者というだけで、出会ったばかりの人が私のことを理解してくれる、その人の言葉が私の心にしみる、今までになかった経験に心から救われました。その経験が今でも私の活動の原点です。

その集いの場で、同様の集いを開いている他区の人たちとも繋がることができました。ただ、どの集いも昼間を中心に開かれるため、夜の集いの場もあったらいいなと思い、神奈川区にあるベーカリーのご厚意で閉店後の店舗を借りて“夜カフェ”を始めました。

繋がることが心地よく、ぜひ西区の集いとも繋がりたいと思い探してみましたが、SNSを駆使しても見つけることができませんでした。そこで、「西区で当事者の集いを開く」ことを目標の一つに、昨年、西区地域づくり大学校を受講し、“にしとも広場”で当事者の集い“親カフェ”を開くことになりました。



曾我部 恵子さん

活動の内容と今後の展望 ～一人で辛さを抱えている人のために～

“親カフェ”は2024年の2月19日に初回を開催、そこから平日の昼間を中心に月1回のペースで続けています。専門家を迎えての集い“親カフェスペシャル”では、6月に不登校専門カウンセラーの阿部伸一さん、9月に臨床心理士の加藤潤さんが参加してくださいました。

回を重ねるにつれ、「初めまして」の方も少しずつ参加して下さるようになりましたが、まだまだ「集い」と呼ぶにはほど遠い状態です。少しでも多くの方に参加してほしいと、開催する曜日・時間帯の変更や、参加対象の拡大、次女の担当だったSSWさんとの新たな企画なども検討しています。

繋がることで私が救われたように、今一人で辛さを抱えている人とも繋がりたい。当事者が理解と共感を得られる、安心できる居場所として“にしとも広場”でお待ちしています。



阿部先生の
講座の様子



加藤先生の
講座の様子

開催報告 「にしとも広場 アート展」

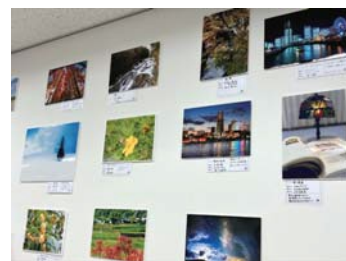
2024年11月1日～30日、にしとも広場のミーティングスペースで2年振りに、「にしとも広場 アート展」を開催しました。

今回は「西区街の名人・達人」登録の方を中心に13組の方に展示やプレゼント作品の寄付のご協力をいただきました。あわせて、前号に掲載のフォトラボ・ルーチェさんとも合同写真展を開催することができました。

区民まつりや区制80周年重ね押しスタンプラリーが同時に開催されたこともあり、幅広い年代の多くの方にご覧いただき、記載いただいたアンケートは168件にもなりました。回答してくださった方へのプレゼントも好評でした。

いただいたご意見・ご感想は一つひとつ大切に、「西区街の名人・達人」の活動としとも広場の運営に活かして参ります。

関わってくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。



(上) アート展の様子
(下) 写真展の様子

新規登録「西区街の名人・達人」のご紹介

(2024年7月～12月登録)

地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」とは、仕事や趣味で培った、自分の経験・知識・技術を活かして、地域のイベントや講座などで活動する、ボランティア人材登録制度です。このページでは、「西区街の名人・達人」に新規登録いただいたみなさんをご紹介します。

コーディネートはにしとも広場にご相談ください。



コーケンボー
《ジャズ・ポップス》



Sports Lab ATHLEO
《ボクシング》



ソワレ行政書士法人
《終活・遺言・相続》



断捨離® トレーナー
上田 ゆみこ
《断捨離®》



あいりん司法書士・
行政書士事務所
《終活・遺言・相続》



ほづみ
《鍵盤ハーモニカと歌》

お知らせ



今後も、にしとも広場からSNS等でタイムリーな情報をお届けします。
ぜひ、ご覧ください!!



編集後記



今回の特集で、ボランティアの方がご自身の活動を「学習支援」と表現することについて、「『してあげる』という感じがして戸惑うことがある」と話されているのが印象的でした。

にしとも広場のスタッフも日々、市民活動支援を通して、皆さまから沢山のパワーや温かい気持ちをいただきます。そこに「してあげる」「してもらおう」の関係性はありません。

お互いに学び合いながら、皆さまとともに地域のために活動を続けていきたいです。

(担当：M)

皆さまのご意見・ご感想を
右の二次元コードよりお送り下さい。



次号にしとも広場25号は、2026年3月発行予定です。お楽しみに！

“にしとも広場”ってどんなところ？

にしと市民活動支援センター“にしとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といったご相談をお待ちしています。



にしとも広場ホームページ



にしと市民活動支援センター
にしとも広場



管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま

TEL/FAX：045-620-6624

【Eメール】 ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp

【ホームページ】 <https://nishitomo-city-yokohama.jp/>

【住所】 横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階

【開館時間】 9:00～17:00

休館日：毎週水曜日・年末年始（12/29～1/3）

【アクセス】 京浜急行「戸部駅」徒歩8分
相模鉄道「平沼橋駅」徒歩10分

